

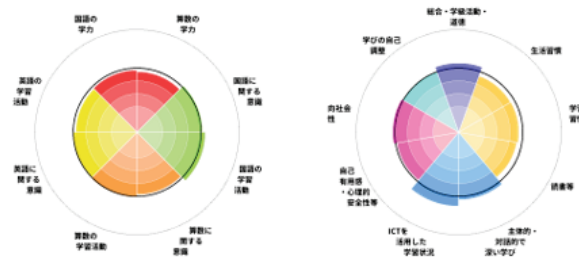
②都道府県（指定都市を除く）別 結果チャート

小学校

※ 結果チャートの見方についてはP13をご参照ください。

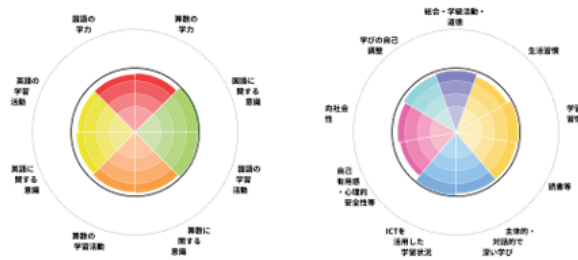
1. 北海道（教科）

（その他）



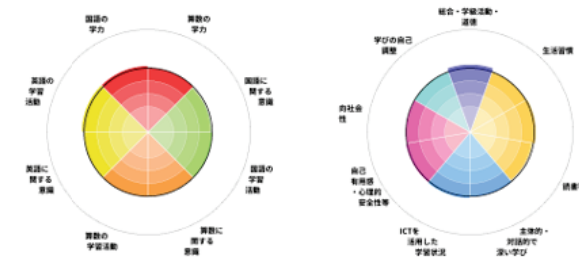
4. 宮城県（教科）

（その他）



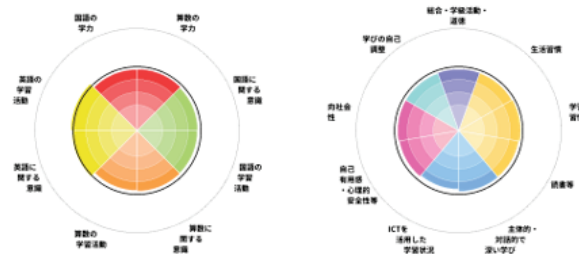
11. 埼玉県（教科）

（その他）



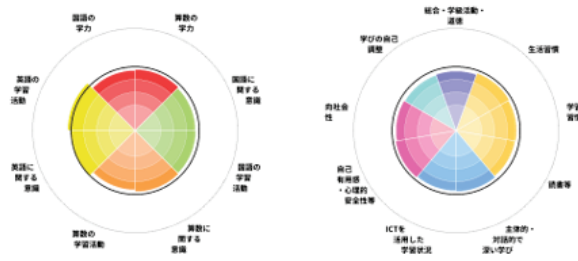
12. 千葉県（教科）

（その他）



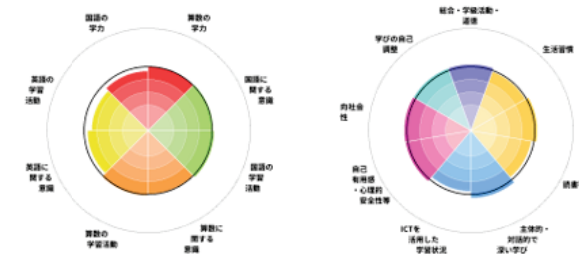
14. 神奈川県（教科）

（その他）



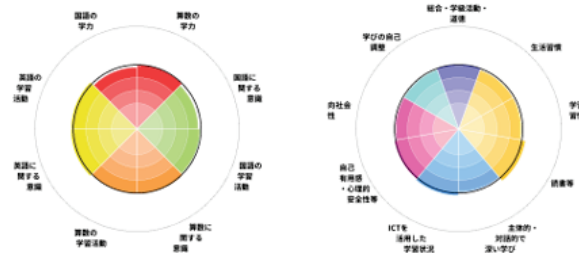
15. 新潟県（教科）

（その他）



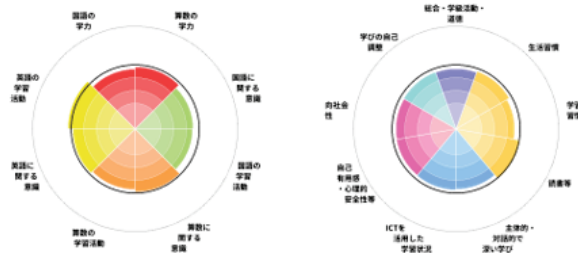
22. 静岡県（教科）

（その他）



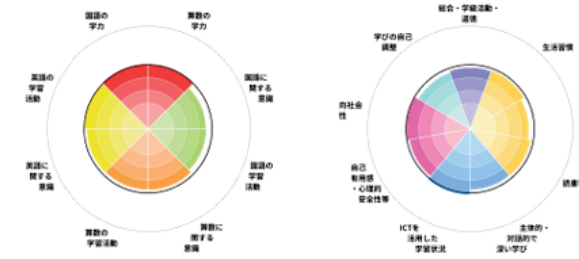
23. 愛知県（教科）

（その他）



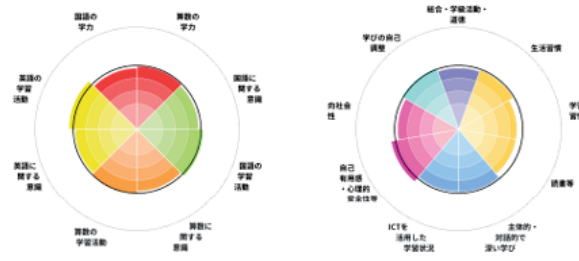
26. 京都府（教科）

（その他）



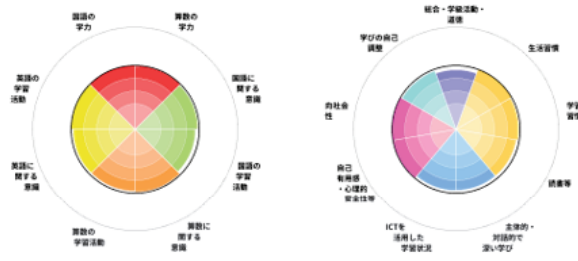
27. 大阪府（教科）

（その他）



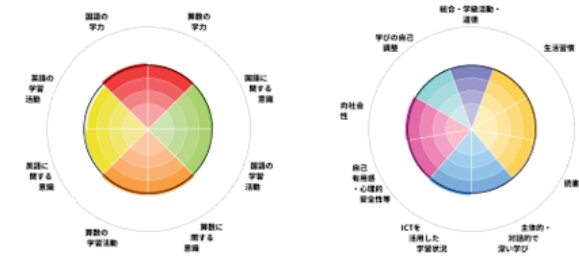
28. 兵庫県（教科）

（その他）



33. 岡山県（教科）

（その他）



②都道府県（指定都市を除く）別 結果チャート

小学校

※ 結果チャートの見方についてはP13をご参照ください。

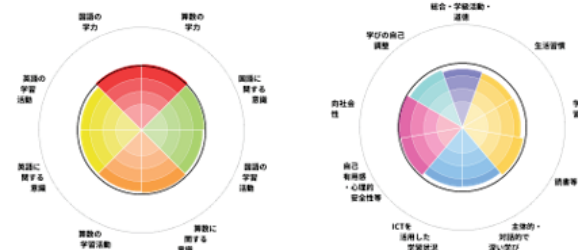
34. 広島県（教科）

（その他）



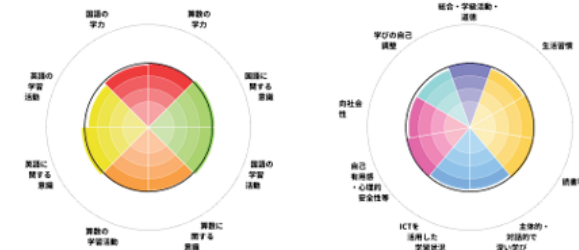
40. 福岡県（教科）

（その他）



43. 熊本県（教科）

（その他）



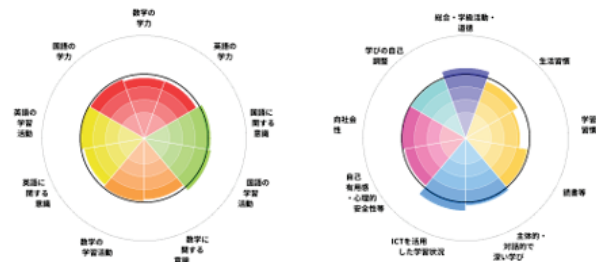
②都道府県（指定都市を除く）別 結果チャート

中学校

※ 結果チャートの見方についてはP13をご参照ください。

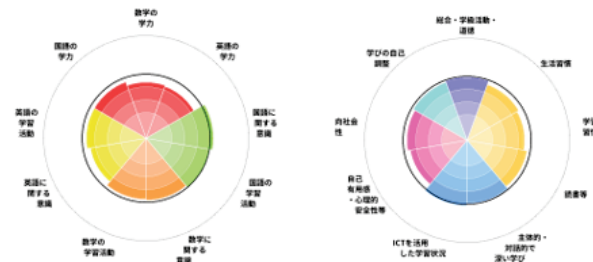
1. 北海道（教科）

（その他）



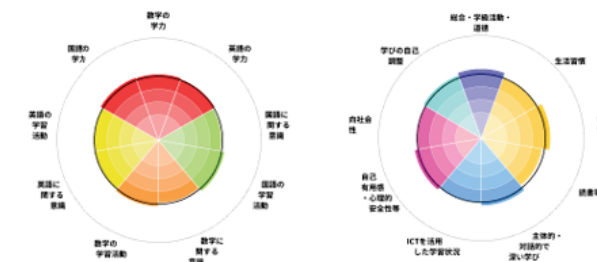
4. 宮城県（教科）

（その他）



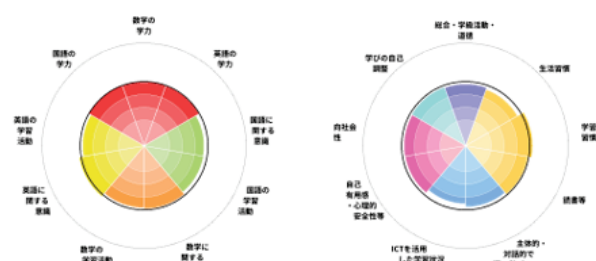
11. 埼玉県（教科）

（その他）



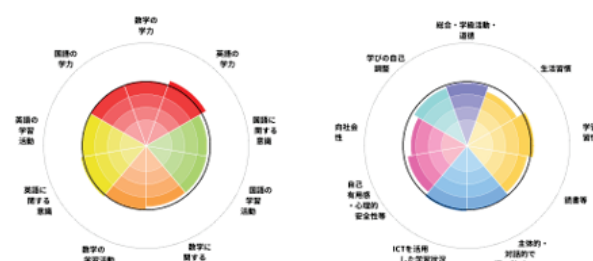
12. 千葉県（教科）

（その他）



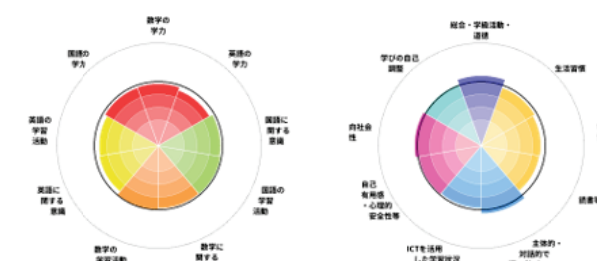
14. 神奈川県（教科）

（その他）



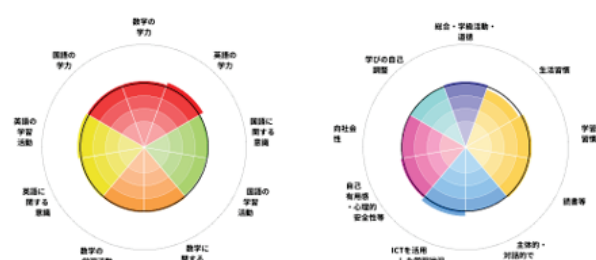
15. 新潟県（教科）

（その他）



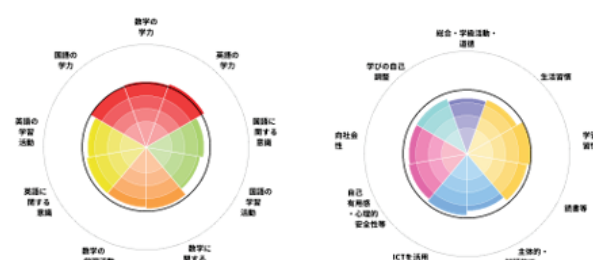
22. 静岡県（教科）

（その他）



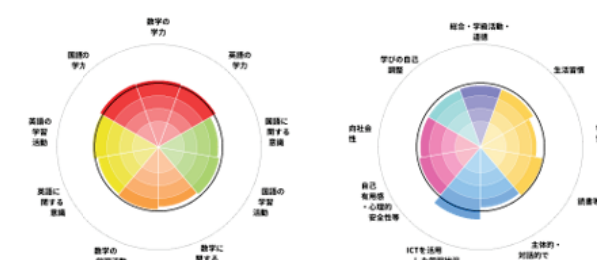
23. 愛知県（教科）

（その他）



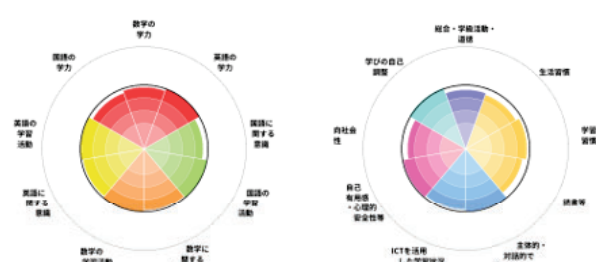
26. 京都府（教科）

（その他）



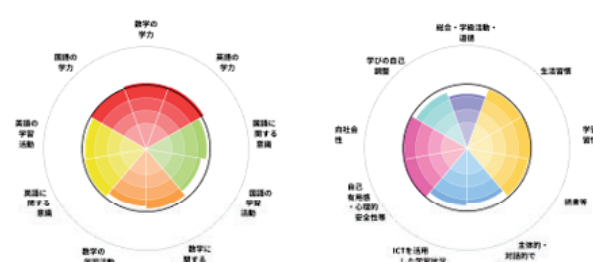
27. 大阪府（教科）

（その他）



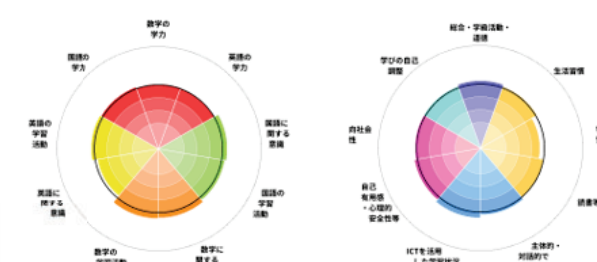
28. 兵庫県（教科）

（その他）



33. 岡山県（教科）

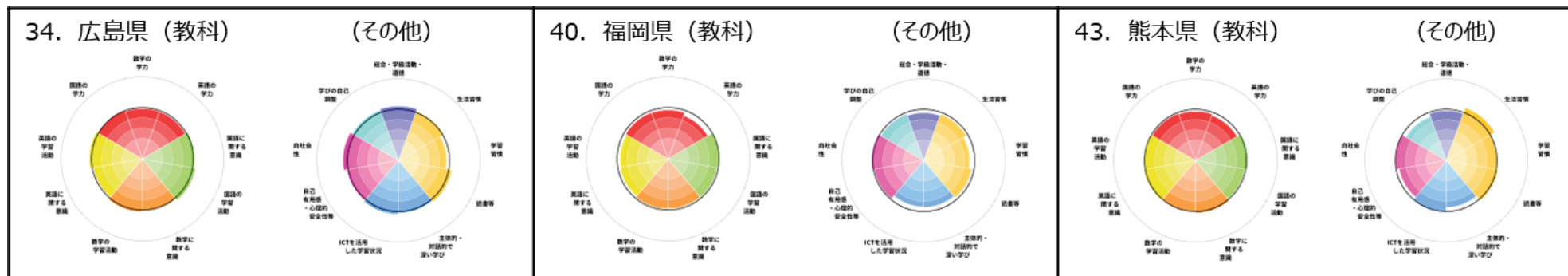
（その他）



② 都道府県（指定都市を除く）別 結果チャート

中学校

※ 結果チャートの見方についてはP13をご参照ください。

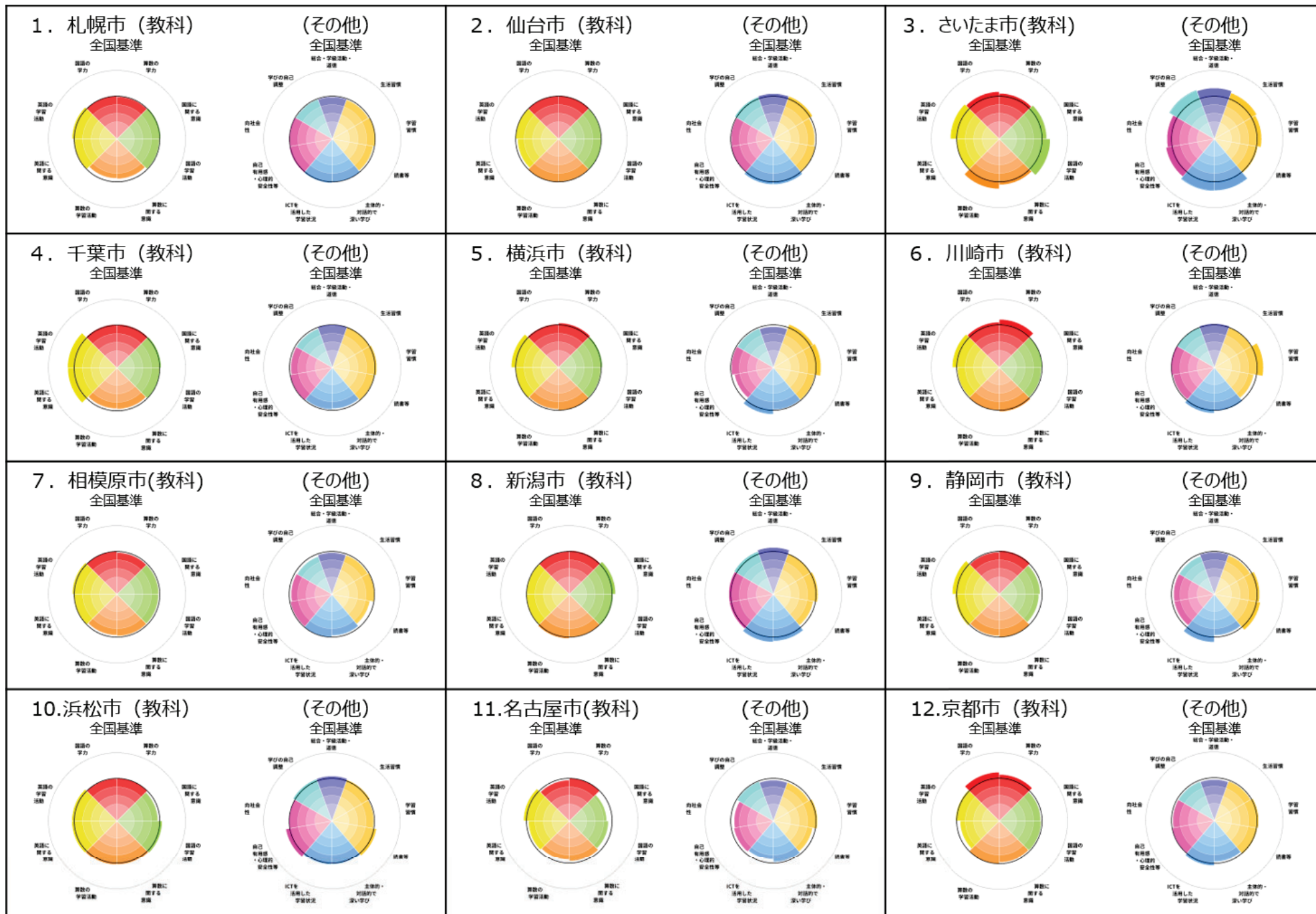


③指定都市別 結果チャート

R8

小学校

※ 結果チャートの見方についてはP13をご参照ください。

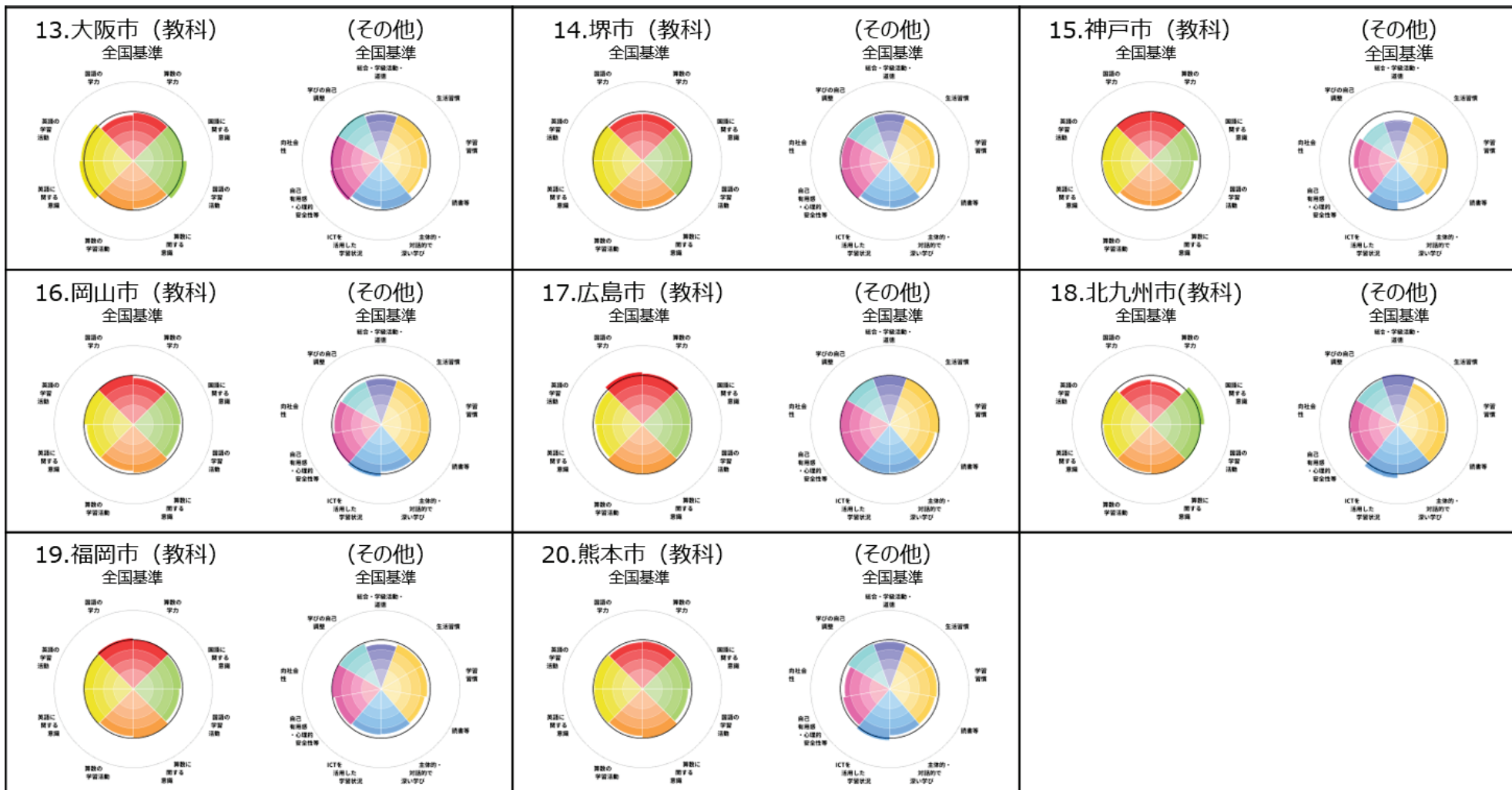


③指定都市別 結果チャート

R8

小学校

※ 結果チャートの見方についてはP13をご参照ください。

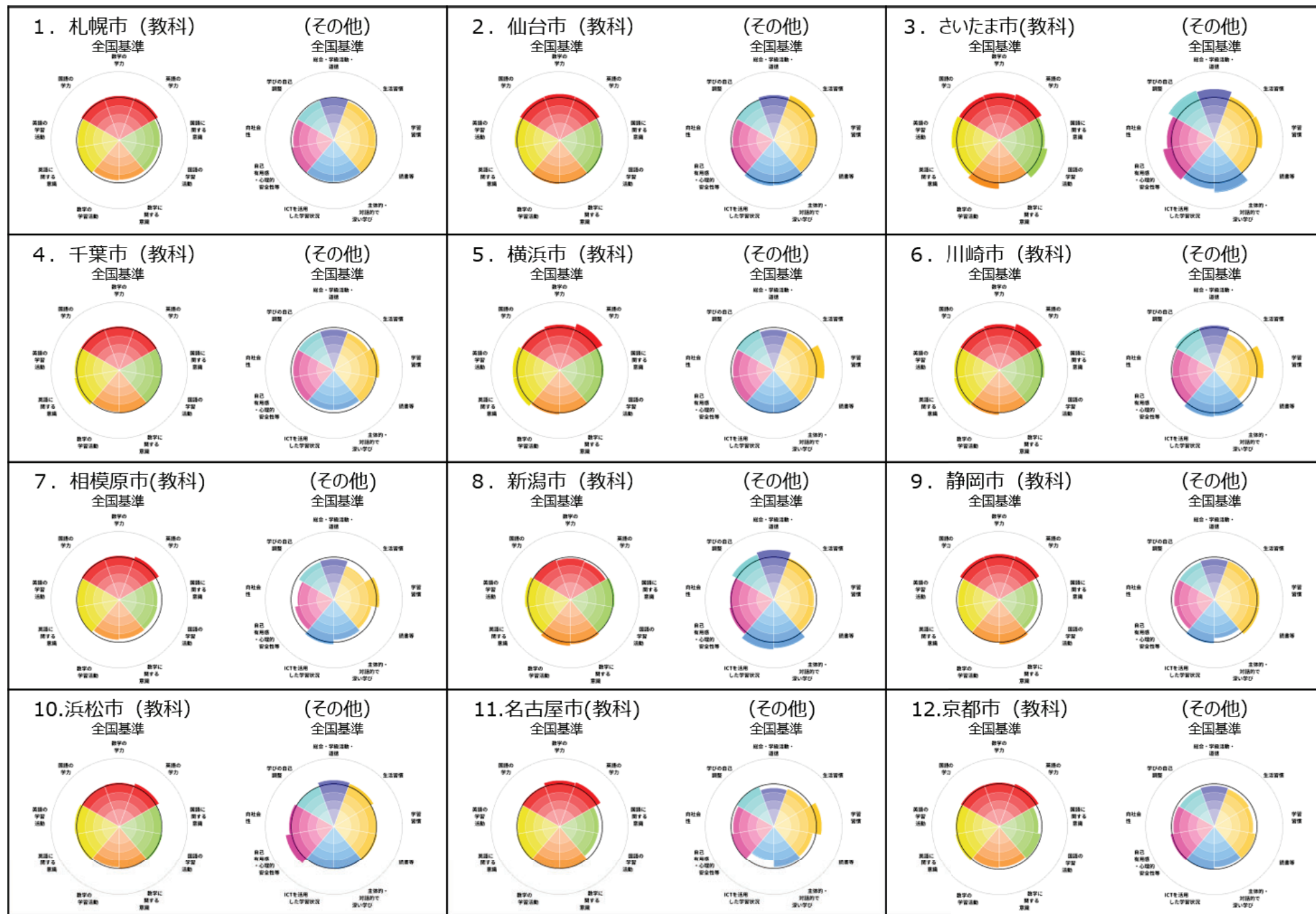


③指定都市別 結果チャート

R8

中学校

※ 結果チャートの見方についてはP13をご参照ください。

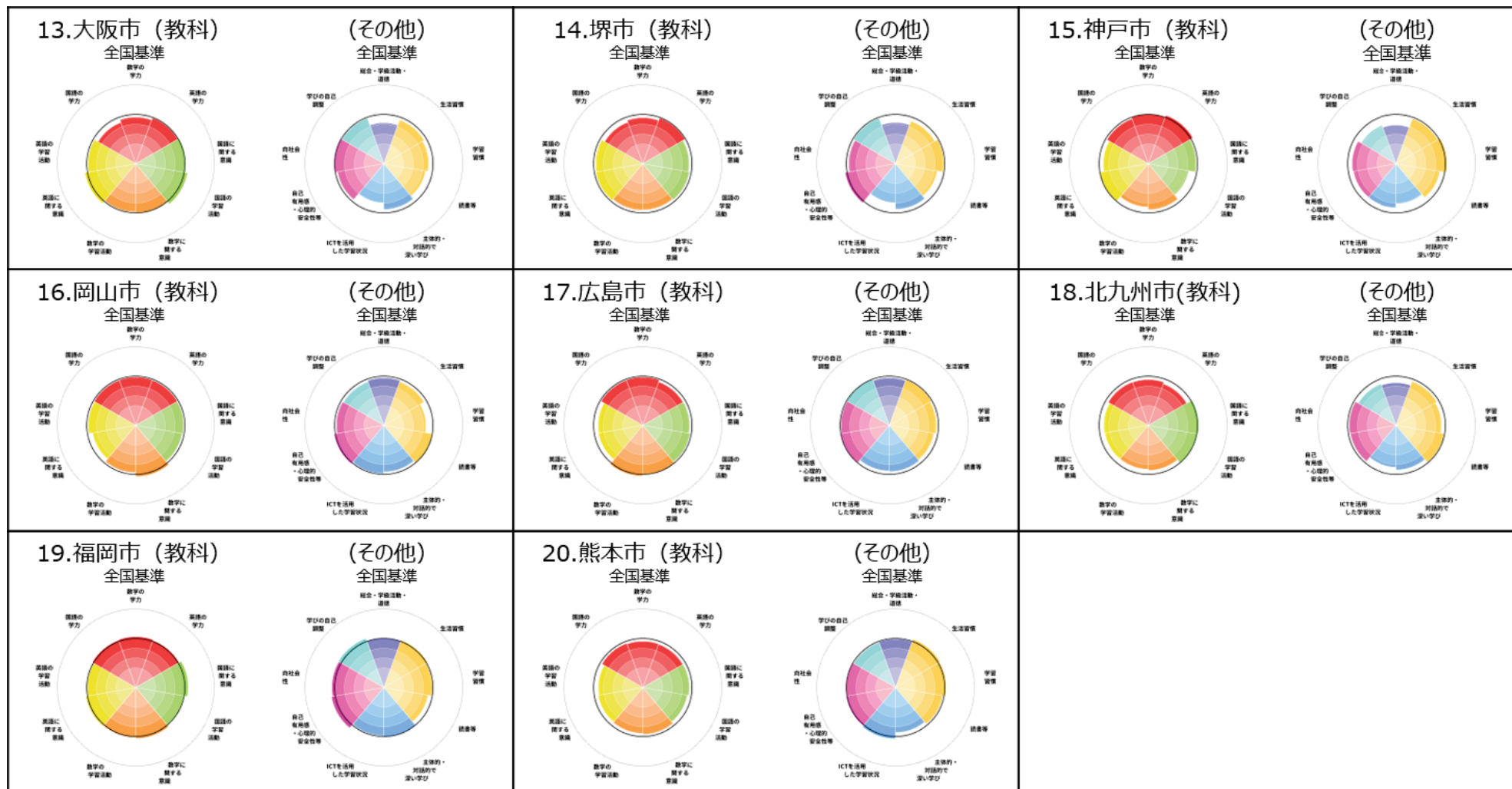


③指定都市別 結果チャート

R8

中学校

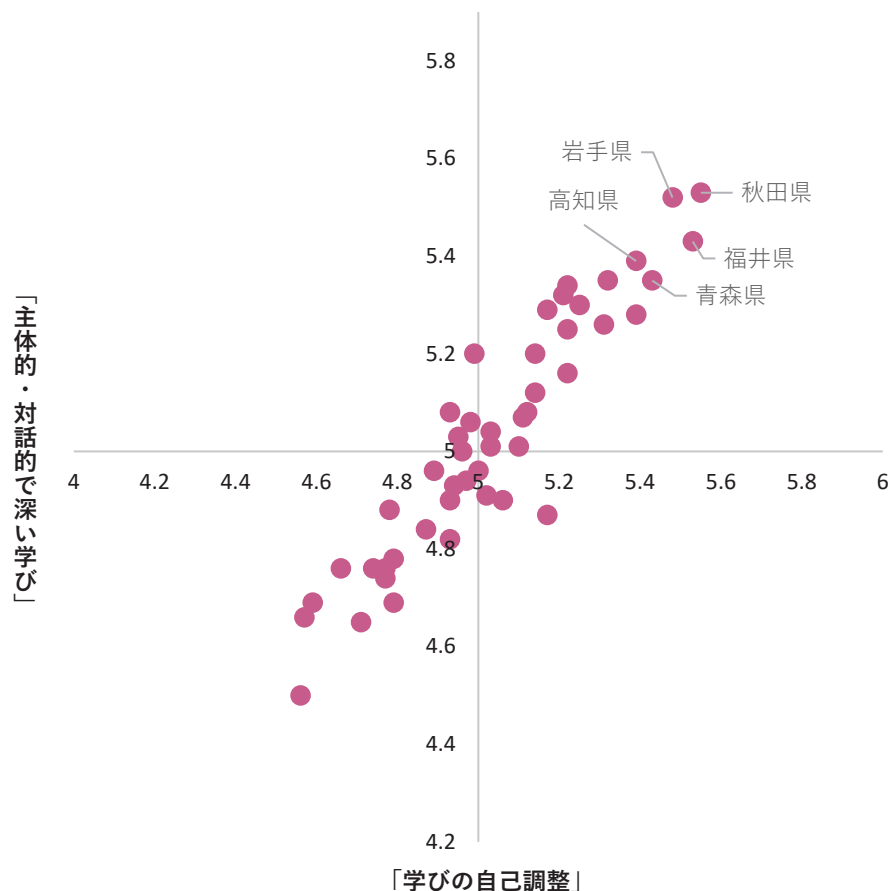
※ 結果チャートの見方についてはP13をご参照ください。



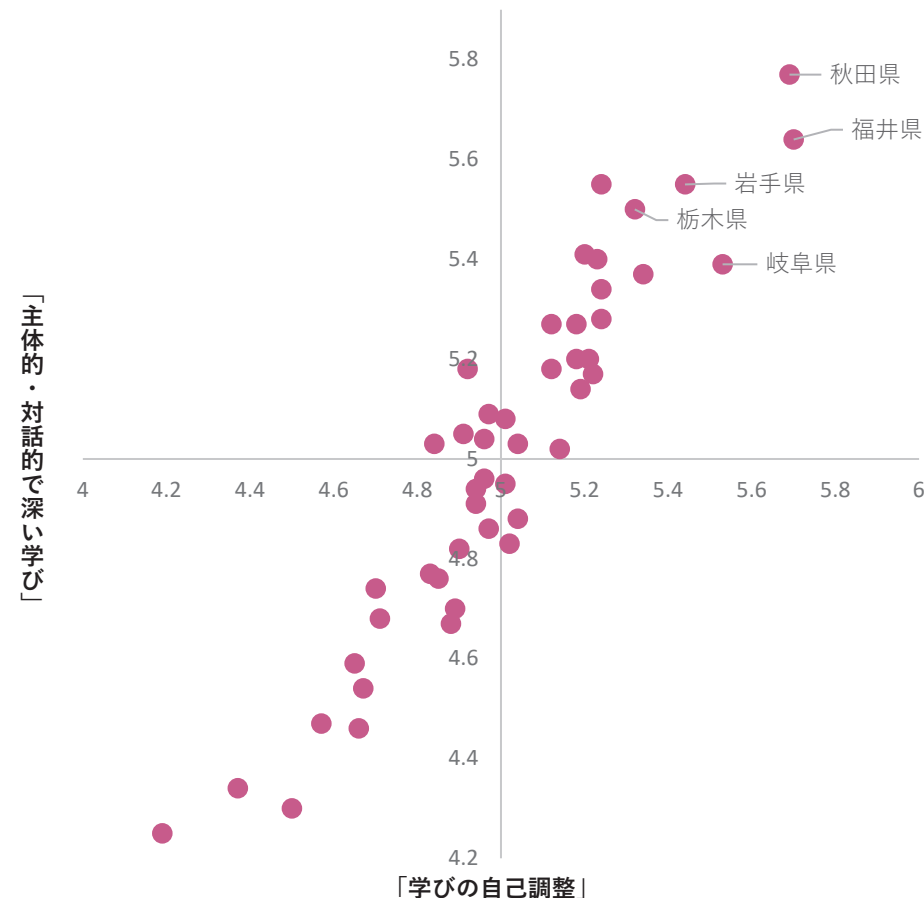
【主体的・対話的で深い学び 児童生徒質問調査〔38〕～〔42〕〔44〕、〔46〕】×【学びの自己調整 児童生徒質問調査〔22〕〔43〕】

- 学びの自己調整について肯定的に回答している児童生徒が多い都道府県では、主体的・対話的で深い学びにつながる取組や授業を受けたと回答した児童生徒が多い傾向が見られ、「学びの自己調整」と「主体的・対話的で深い学び」は相互に関連する可能性がある。

【小学校】



【中学校】



縦軸：児童生徒質問調査における「主体的・対話的で深い学び」（38～42、44、46）の回答状況を得点換算したもの。

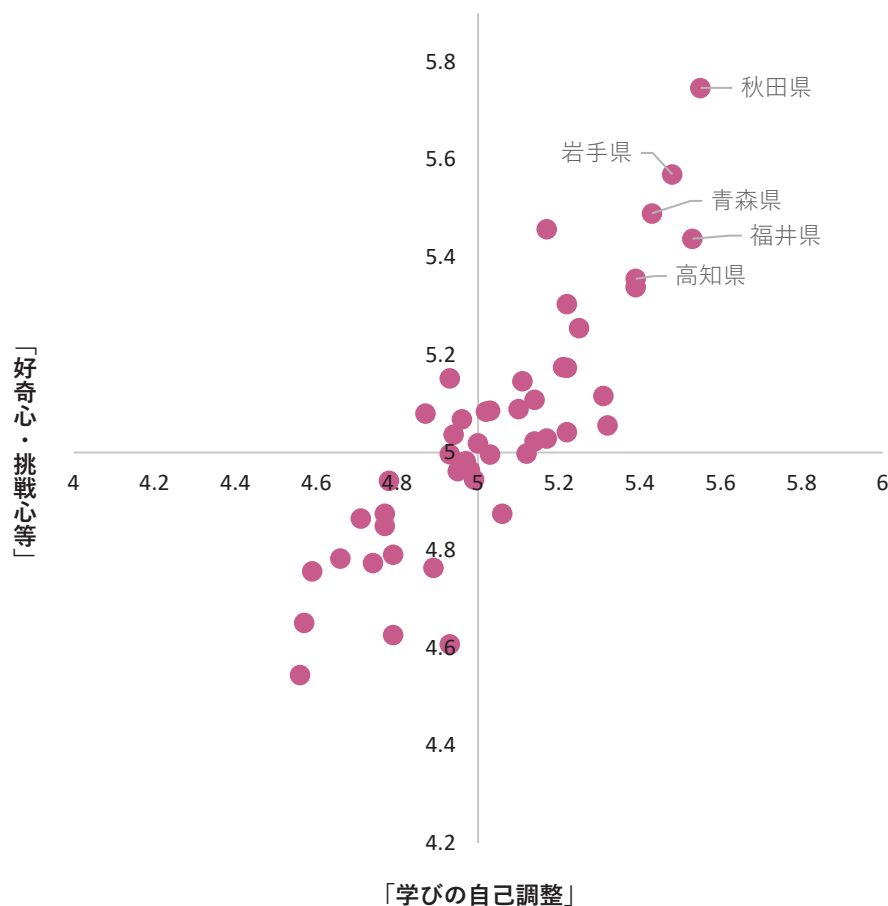
横軸：児童生徒質問調査における「学びの自己調整」（22、43）の回答状況を得点換算したもの。

縦軸、横軸ともに全国（公立）平均が5.0となるように標準化しており、その値が大きいほど、当該領域において肯定的な回答割合が高いことを意味している。

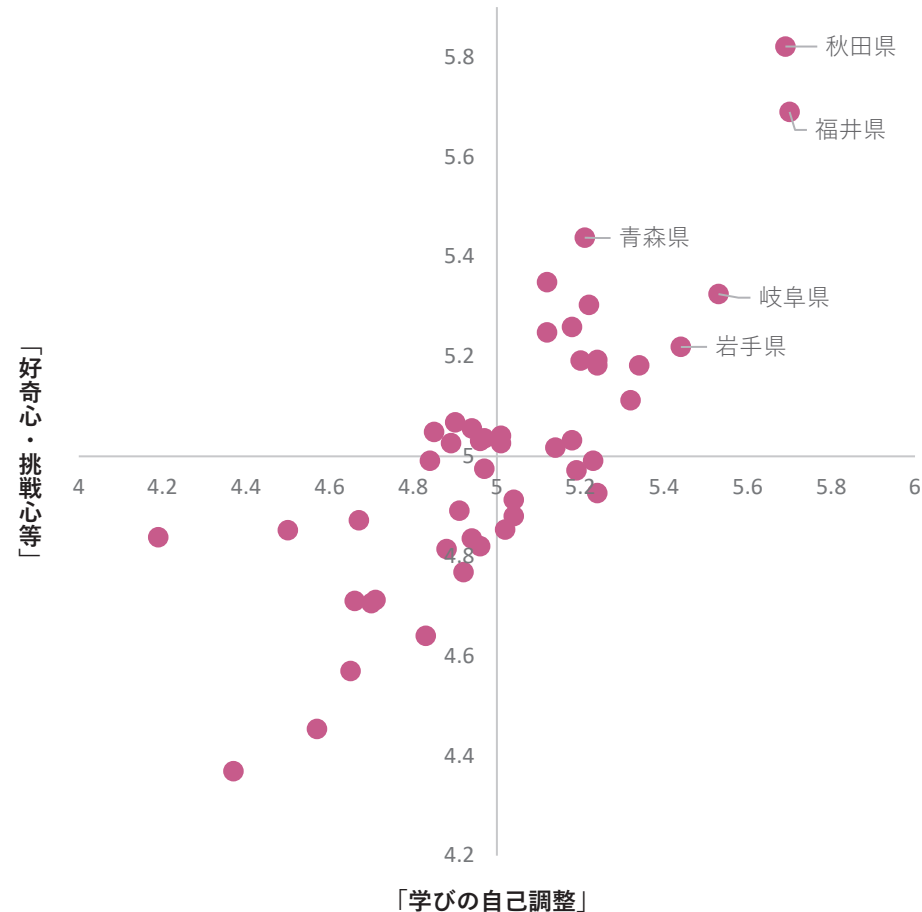
【好奇心・挑戦心等 児童生徒質問調査〔18-1〕～〔19-3〕】×【学びの自己調整 児童生徒質問調査〔22〕〔43〕】

- 自らの学習を調整する児童生徒の割合が高い都道府県では、児童生徒の好奇心や新しい課題に挑戦しようとする姿勢も高い傾向が見られ、「学びの自己調整」と「好奇心・挑戦心等」は相互に関連する可能性がある。

【小学校】



【中学校】



縦軸：児童生徒質問調査における挑戦心・好奇心等に関する質問（18-1～19-3）の回答状況を得点換算したもの。

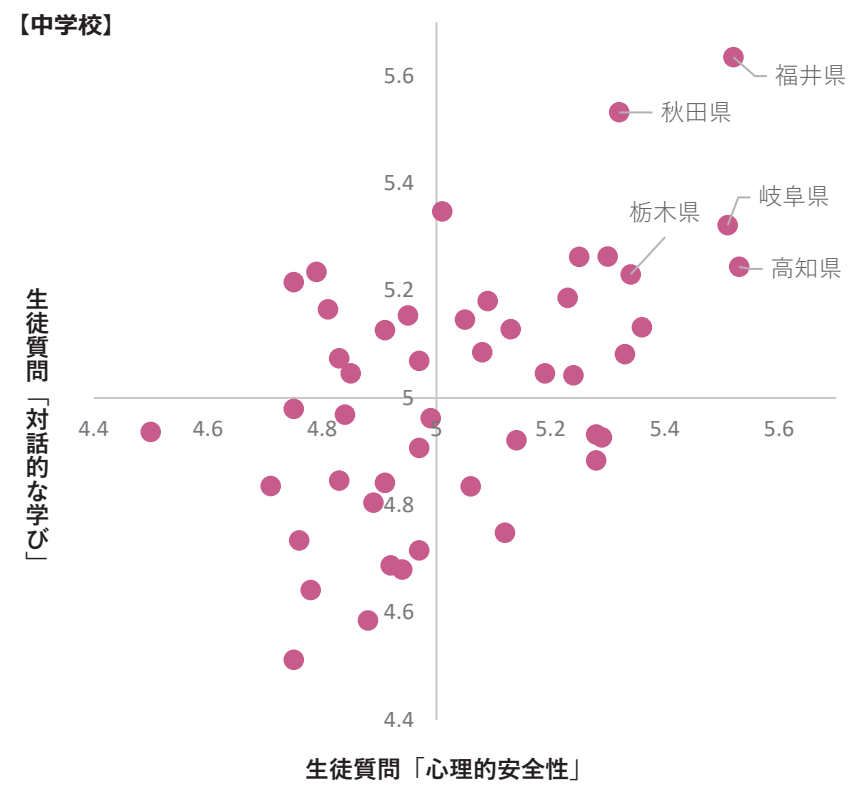
横軸：児童生徒質問調査における「学びの自己調整」（22、43）の回答状況を得点換算したもの。

縦軸、横軸ともに全国（公立）平均が5.0となるように標準化しており、その値が大きいほど、当該領域において肯定的な回答割合が高いことを意味している。

【対話的な学び 生徒質問調査〔42〕】×【心理的安全性 生徒質問調査〔20〕】

- 対話的な学びを行っているとは回答した児童生徒の割合が高い都道府県では、学級の心理的安全性が保たれていると回答した生徒が比較的多く、安心して意見を表明できる環境と、対話を通じて考えを深める学びとの関連がうかがえる。

生徒質問（42）：学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。
生徒質問（20）：あなたの学級では、人と違う意見を言っても否定されないと思う。

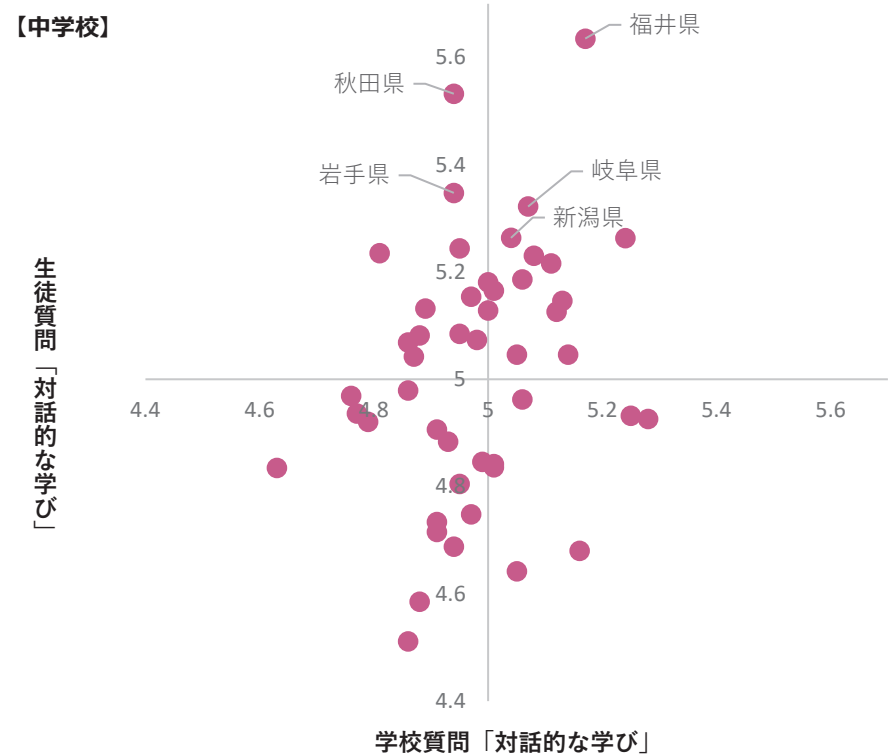


縦軸：生徒質問調査における「主体的・対話的で深い学び」の対話的な学びに関する質問（42）の回答状況を得点換算したもの。
横軸：生徒質問調査における「自己有用感・心理的安全性等」の心理的安全性に関する質問（20）の回答状況を得点換算したもの。
縦軸、横軸ともに全国平均が5.0となるように標準化しており、その値が大きいほど、当該領域において肯定的な回答割合が高いことを意味している。

【対話的な学び 生徒質問調査〔42〕】×【対話的な学び 学校質問調査〔28〕】

- 学校が評価する生徒の対話的な学びの状況と生徒が実感する対話を通じた考えの深まりとの間には、明確な関連は見られない。
- このことは、学校と生徒の間に認識の差がある可能性を示唆しており、対話的な学びの充実にあたっては、時に学校の取組を見直ししながら、生徒の考えの深まりや新たな気付きの実感につなげることが重要であることが示唆されている。

生徒質問（42）：学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。
学校質問（28）：生徒は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができていますか。



縦軸：生徒質問調査における「主体的・対話的で深い学び」の対話的な学びに関する質問（42）の回答状況を得点換算したもの。
横軸：学校質問調査における調査対象の生徒の対話的な学びの状況に関する質問（28）の回答状況を得点換算したもの。
縦軸、横軸ともに全国平均が5.0となるように標準化しており、その値が大きいほど、当該領域において肯定的な回答割合が高いことを意味している。

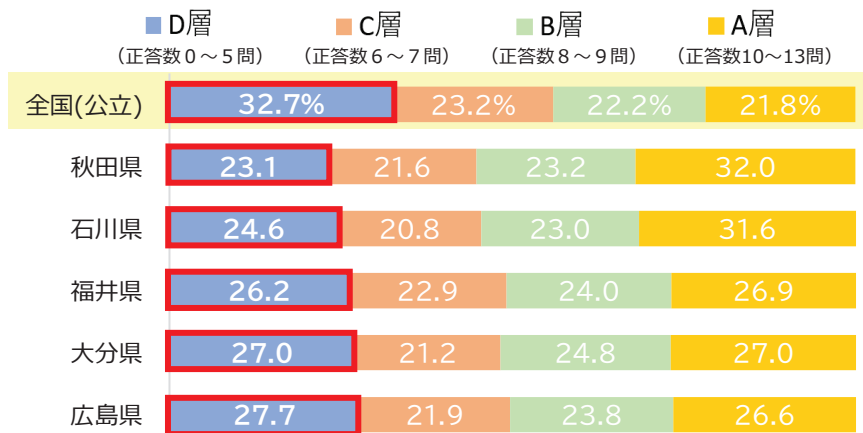
令和8年度全国学力・学習状況調査でも、SESが低いグループほど各教科の正答率・スコアが低い傾向が見られた。(令和8年度全国学力・学習状況調査の結果(概要)P62より)。そのため、**47都道府県それぞれのSESが低いグループを取り出した上で各学力D層及びIRTバンド1の割合や平均正答率・平均スコアを比較した**。SESが低くても学力D層及びIRTバンド1の割合・平均正答率・平均スコアとICTの活用に一定の関係が見られた。

ポイント 低SESグループにおいて、学力D層の割合が全国と比べても少ない、又は学力D層の平均正答率が全国と比べても高い都道府県が見られた。低SESグループにおいて学力D層の割合が低い、または平均正答率が高い都道府県では、ICTを活用する自信について肯定的な回答をする低SESグループの児童生徒が多い傾向が見られた。

小・国語

※SES (Socio-Economic Status) : 社会経済的背景。本調査では、児童生徒質問調査〔29〕「家にある本の冊数」をSESの代替指標として利用(低SESグループ(0~25冊)、中SESグループ(26~100冊)、高SESグループ(101冊以上))。

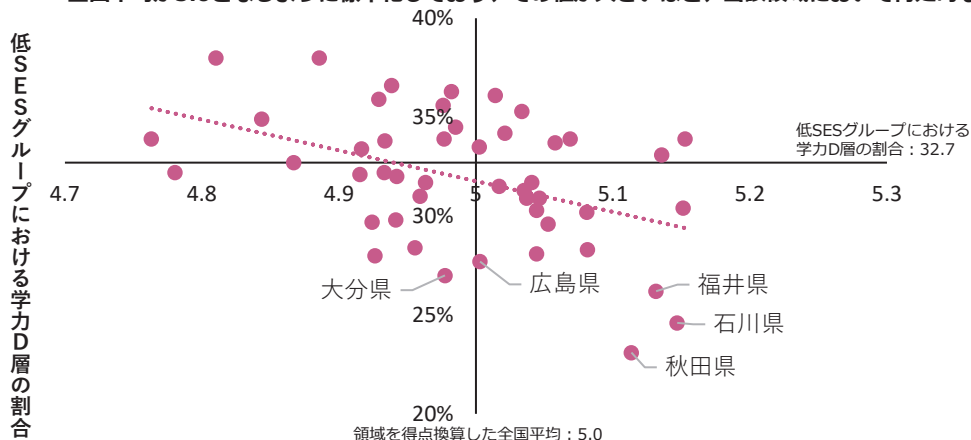
低SESグループで学力D層の割合が少ない5都道府県



縦軸：低SESグループにおける学力D層の割合(左) 平均正答率(右)

横軸：低SESグループにおける児童生徒質問調査のICTを活用する自信(36-1~4)の回答状況を得点換算したもの。

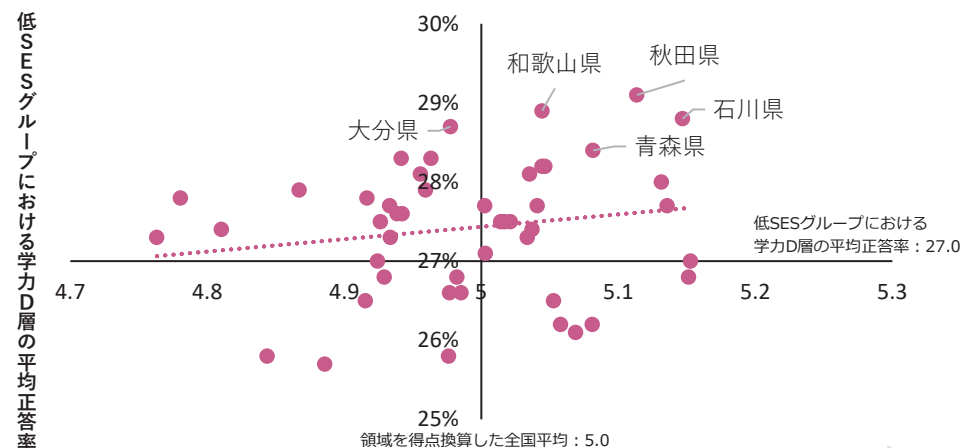
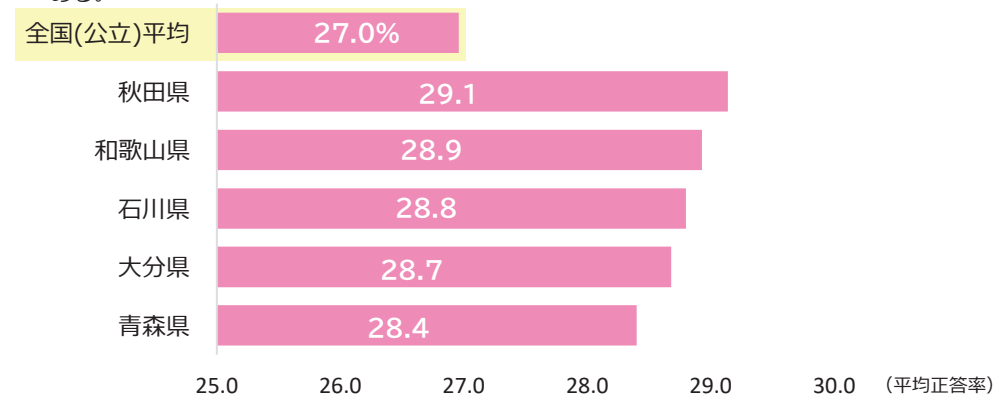
全国平均が5.0となるように標準化しており、その値が大きいほど、当該領域において肯定的な回答割合が高いことを意味している。



「ICTを活用する自信」について肯定的回答が多い。

低SESグループで学力D層の平均正答率が高い5都道府県

※表示値は小数第2位を四捨五入して小数第1位まで示している。グラフは四捨五入前の数値に基づいて作成しているため、表示値が同じ場合でも、グラフの長さが異なることがある。



「ICTを活用する自信」について肯定的回答が多い。

各都道府県の低SESグループにおける学力層分布とICTの活用(中学校・国語)

令和8年度全国学力・学習状況調査でも、SESが低いグループほど各教科の正答率・スコアが低い傾向が見られた。(令和8年度全国学力・学習状況調査の結果(概要)P62より)。そのため、**47都道府県それぞれのSESが低いグループを取り出した上で各学力D層及びIRTバンド1の割合や平均正答率・平均スコアを比較した**。SESが低くても学力D層及びIRTバンド1の割合・平均正答率・平均スコアとICTの活用に一定の関係が見られた。

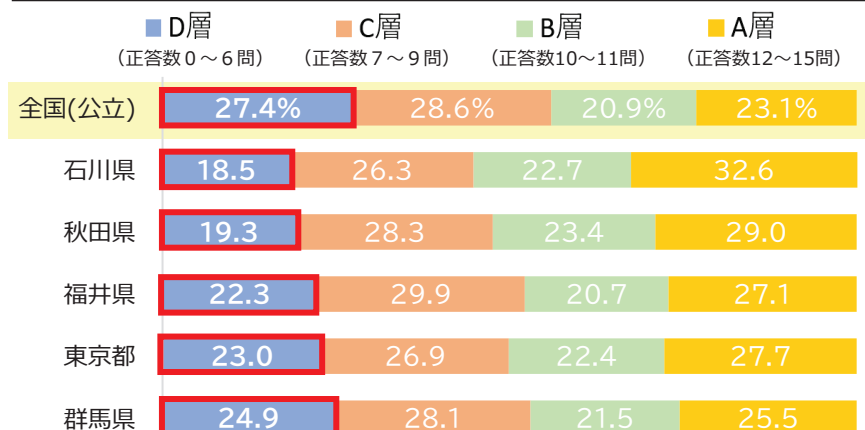
ポイント

低SESグループにおいて、学力D層の割合が全国と比べても少ない、又は学力D層の平均正答率が全国と比べても高い都道府県が見られた。低SESグループにおいて学力D層の割合が低い、または平均正答率が高い都道府県では、ICTを活用する自信について肯定的な回答をする低SESグループの児童生徒が多い傾向が見られた。

中・国語

※SES (Socio-Economic Status): 社会経済的背景。本調査では、児童生徒質問調査〔29〕「家にある本の冊数」をSESの代替指標として利用(低SESグループ(0~25冊)、中SESグループ(26~100冊)、高SESグループ(101冊以上))。

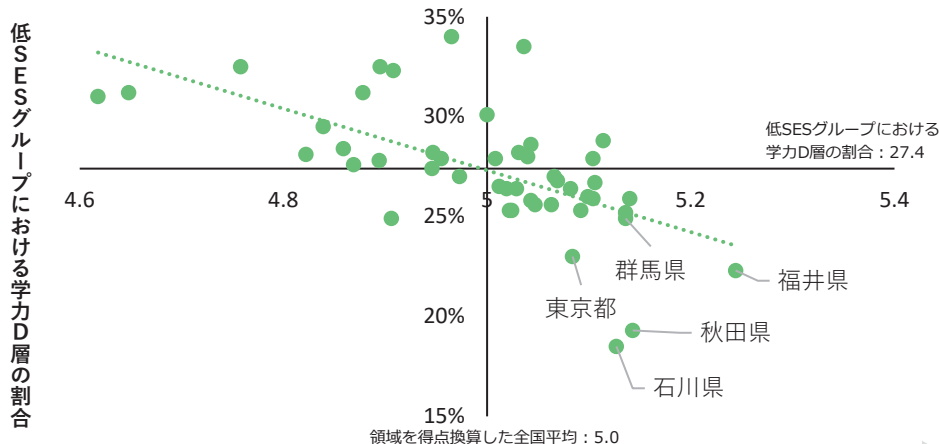
低SESグループで学力D層の割合が少ない5都道府県



縦軸: 低SESグループにおける学力D層の割合(左) 平均正答率(右)

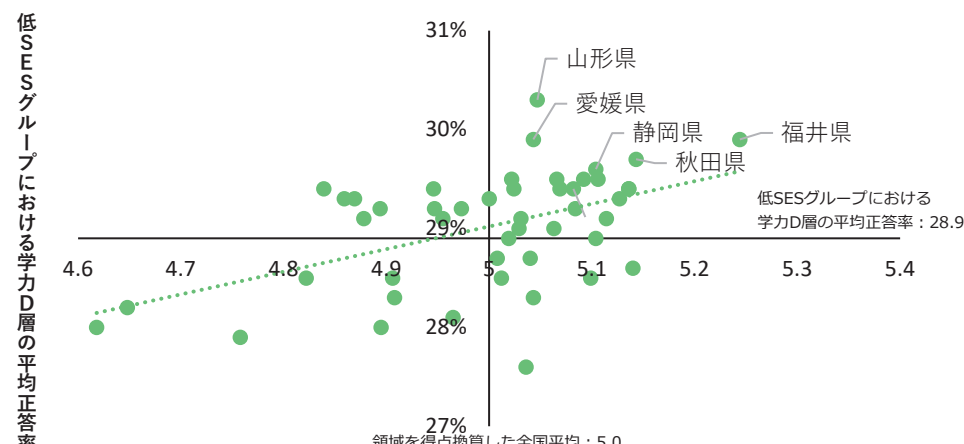
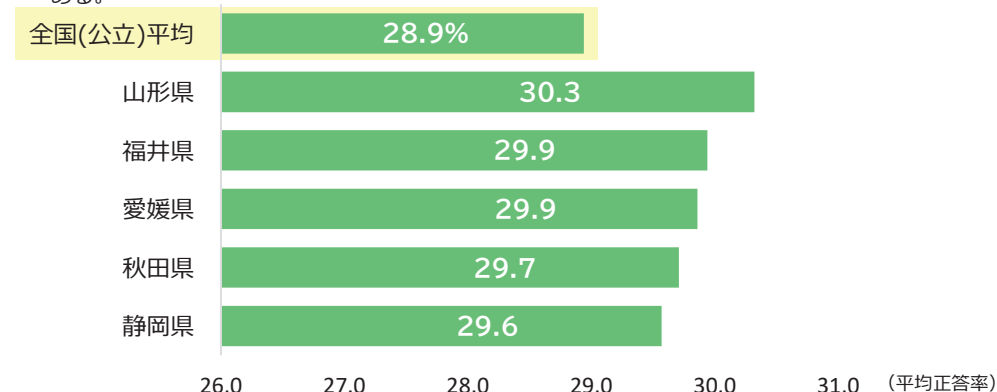
横軸: 低SESグループにおける児童生徒質問調査のICTを活用する自信(36-1~4)の回答状況を得点換算したもの。

全国平均が5.0となるように標準化しており、その値が大きいほど、当該領域において肯定的な回答割合が高いことを意味している。



低SESグループで学力D層の平均正答率が高い5都道府県

※表示値は小数第2位を四捨五入して小数第1位まで示している。グラフは四捨五入前の数値に基づいて作成しているため、表示値が同じ場合でも、グラフの長さが異なることがある。



令和8年度全国学力・学習状況調査でも、SESが低いグループほど各教科の正答率・スコアが低い傾向が見られた。(令和8年度全国学力・学習状況調査の結果(概要)P62より)。そのため、**47都道府県それぞれのSESが低いグループを取り出した上で各学力D層及びIRTバンド1の割合や平均正答率・平均スコアを比較した**。SESが低くても学力D層及びIRTバンド1の割合・平均正答率・平均スコアとICTの活用に一定の関係が見られた。

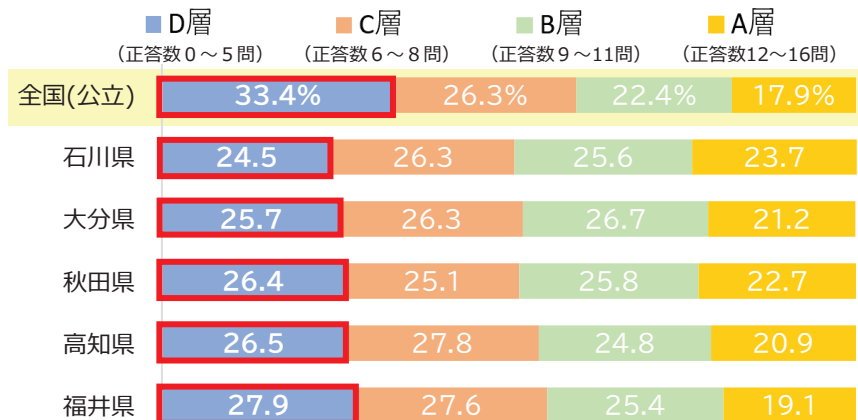
ポイント

低SESグループにおいて、学力D層の割合が全国と比べても少ない、又は学力D層の平均正答率が全国と比べても高い都道府県が見られた。低SESグループにおいて学力D層の割合が低い、または平均正答率が高い都道府県では、ICTを活用する自信について肯定的な回答をする低SESグループの児童生徒が多い傾向が見られた。

小・算数

※SES (Socio-Economic Status) : 社会経済的背景。本調査では、児童生徒質問調査〔29〕「家にある本の冊数」をSESの代替指標として利用(低SESグループ(0~25冊)、中SESグループ(26~100冊)、高SESグループ(101冊以上))。

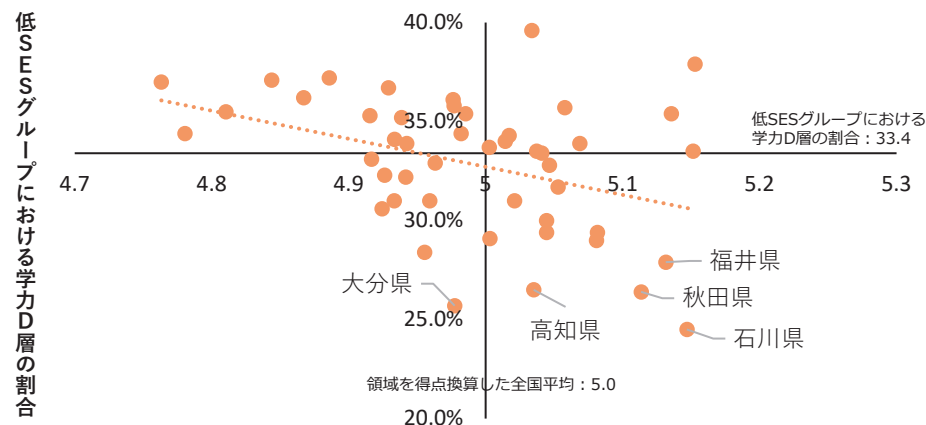
低SESグループで学力D層の割合が少ない5都道府県



縦軸：低SESグループにおける学力D層の割合(左) 平均正答率(右)

横軸：低SESグループにおける児童生徒質問調査のICTを活用する自信(36-1~4)の回答状況を得点換算したもの。

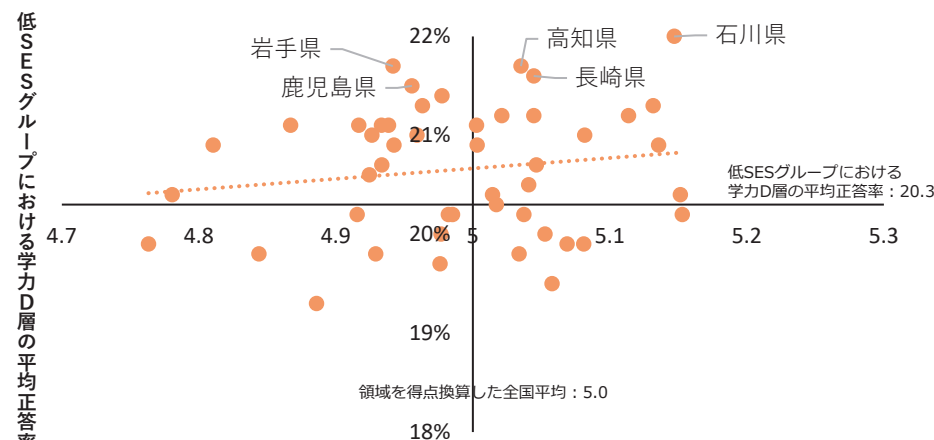
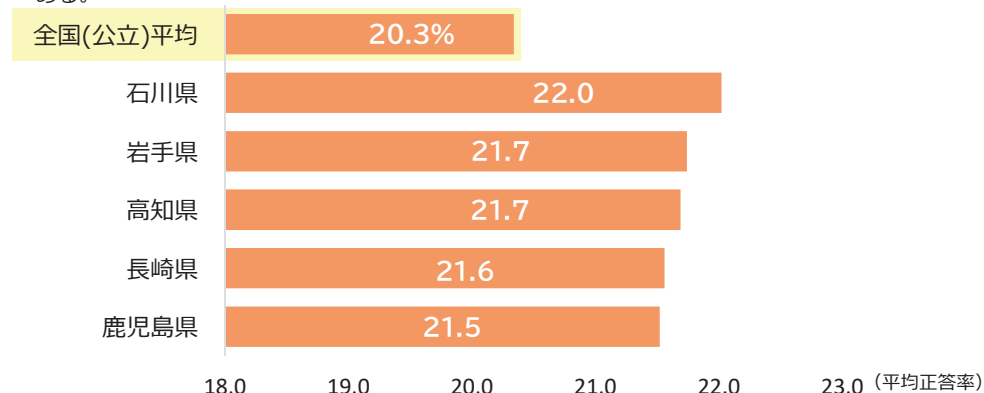
全国平均が5.0となるように標準化しており、その値が大きいほど、当該領域において肯定的な回答割合が高いことを意味している。



「ICTを活用する自信」について肯定的回答が多い。

低SESグループで学力D層の平均正答率が高い5都道府県

※表示値は小数第2位を四捨五入して小数第1位まで示している。グラフは四捨五入前の数値に基づいて作成しているため、表示値が同じ場合でも、グラフの長さが異なることがある。



「ICTを活用する自信」について肯定的回答が多い。

令和8年度全国学力・学習状況調査でも、SESが低いグループほど各教科の正答率・スコアが低い傾向が見られた。(令和8年度全国学力・学習状況調査の結果(概要)P62より)。そのため、**47都道府県それぞれのSESが低いグループを取り出した上で各学力D層及びIRTバンド1の割合や平均正答率・平均スコアを比較した**。SESが低くても学力D層及びIRTバンド1の割合・平均正答率・平均スコアとICTの活用に一定の関係が見られた。

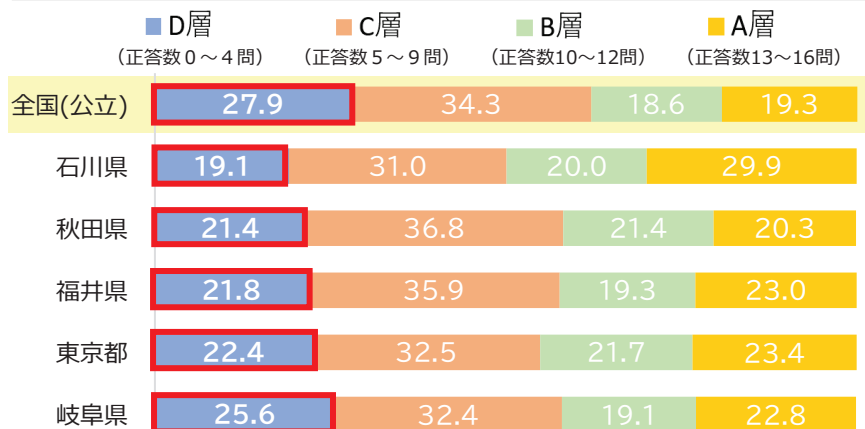
ポイント

低SESグループにおいて、学力D層の割合が全国と比べても少ない、又は学力D層の平均正答率が全国と比べても高い都道府県が見られた。低SESグループにおいて学力D層の割合が低い、または平均正答率が高い都道府県では、ICTを活用する自信について肯定的な回答をする低SESグループの児童生徒が多い傾向が見られた。

中・数学

※SES (Socio-Economic Status) : 社会経済的背景。本調査では、児童生徒質問調査〔29〕「家にある本の冊数」をSESの代替指標として利用(低SESグループ(0~25冊)、中SESグループ(26~100冊)、高SESグループ(101冊以上))。

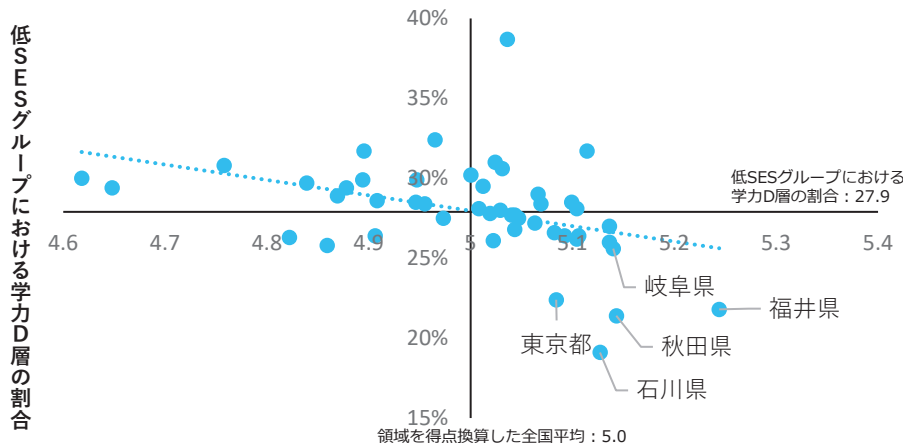
低SESグループで学力D層の割合が少ない5都道府県



縦軸：低SESグループにおける学力D層の割合(左) 平均正答率(右)

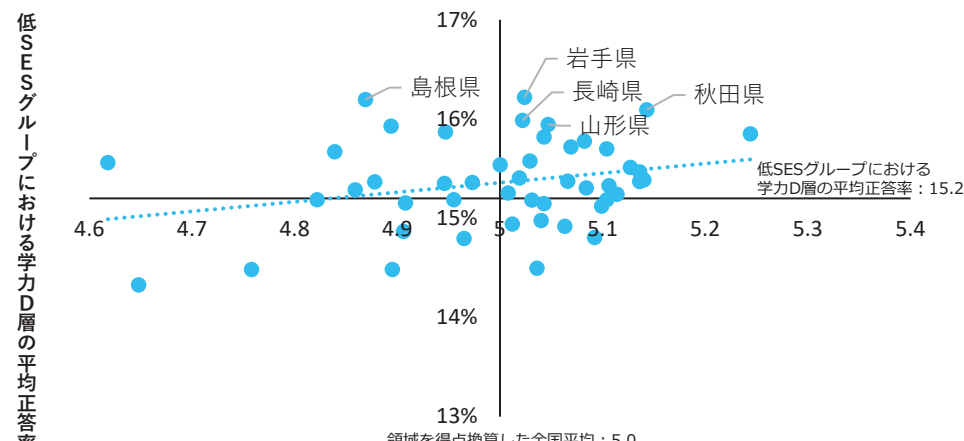
横軸：低SESグループにおける児童生徒質問調査のICTを活用する自信(36-1~4)の回答状況を得点換算したもの。

全国平均が5.0となるように標準化しており、その値が大きいほど、当該領域において肯定的な回答割合が高いことを意味している。



低SESグループで学力D層の平均正答率が高い5都道府県

※表示値は小数第2位を四捨五入して小数第1位まで示している。グラフは四捨五入前の数値に基づいて作成しているため、表示値が同じ場合でも、グラフの長さが異なることがある。



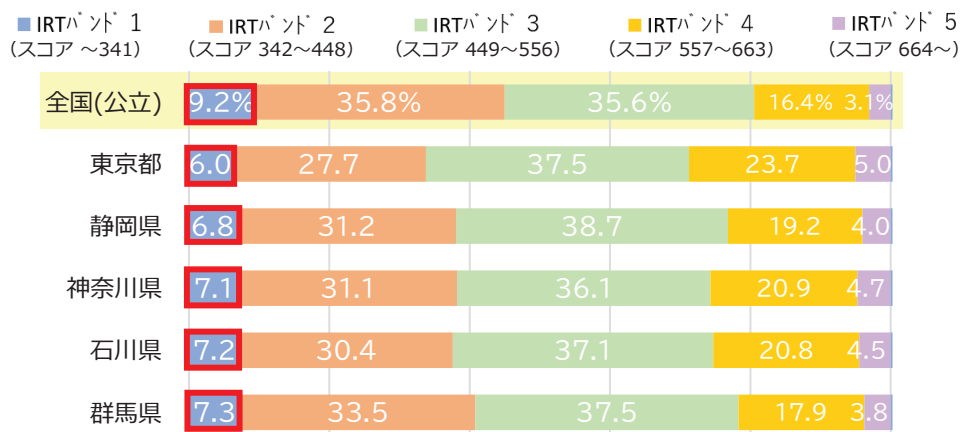
令和8年度全国学力・学習状況調査でも、SESが低いグループほど各教科の正答率・スコアが低い傾向が見られた。(令和8年度全国学力・学習状況調査の結果(概要)P62より)。そのため、**47都道府県それぞれのSESが低いグループを取り出した上で各学力D層及びIRTバンド1の割合や平均正答率・平均スコアを比較した**。SESが低くても学力D層及びIRTバンド1の割合・平均正答率・平均スコアとICTの活用に一定の関係が見られた。

ポイント 低SESグループにおいて、IRTバンド1の割合が全国と比べても少ない、又はIRTバンド1の平均スコアが全国と比べても高い都道府県が見られた。低SESグループにおいてIRTバンド1の割合が低い、または平均スコアが高い都道府県では、ICTを活用する自信について肯定的な回答をする低SESグループの児童生徒が多い傾向が見られた。

中・英語4技能

※SES (Socio-Economic Status) : 社会経済的背景。本調査では、児童生徒質問調査〔29〕「家にある本の冊数」をSESの代替指標として利用(低SESグループ(0~25冊)、中SESグループ(26~100冊)、高SESグループ(101冊以上))。

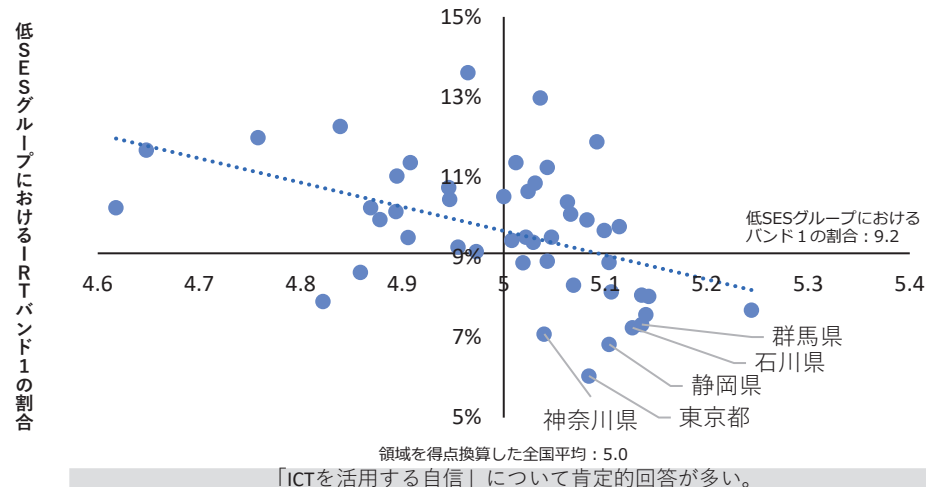
低SESグループでIRTバンド1の割合が少ない5都道府県



縦軸：低SESグループにおけるIRTバンド1の割合(左) 平均スコア(右)

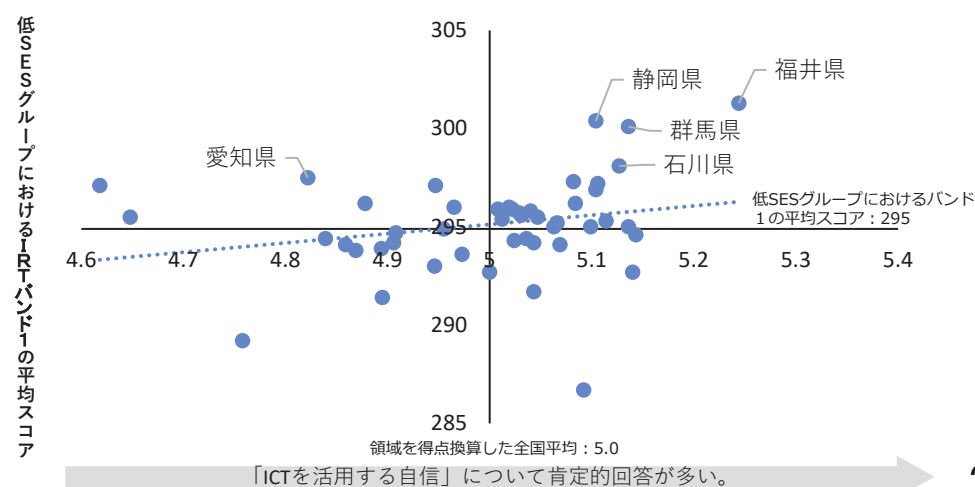
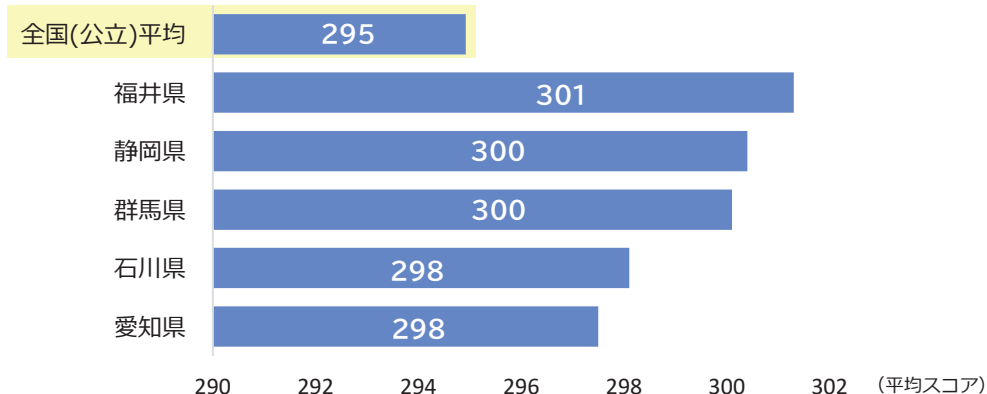
横軸：低SESグループにおける児童生徒質問調査のICTを活用する自信(36~1~4)の回答状況を得点換算したもの。

全国平均が5.0となるように標準化しており、その値が大きいほど、当該領域において肯定的な回答割合が高いことを意味している。



低SESグループでIRTバンド1の平均スコアが高い5都道府県

※表示値は小数第1位を四捨五入して整数値で示している。グラフは四捨五入前の数値に基づいて作成しているため、表示値が同じ場合でも、グラフの長さが異なることがある。



文部科学省では、GIGA端末の効果的な利活用を促進するとともに、児童生徒のICTを活用する自信につなげるため、以下のような取組を行っています。各自治体における施策の検討や、学校での取組を進める際の参考として、ぜひご活用ください。

GIGA×深い学びの事例普及・展開に向けた主な取組

※令和5年公開時～令和8年9月までのPV数等をそれぞれ集計

！20万回以上※
視聴されています！

1 特設サイトによる事例・動画の公開

！約256万回※
閲覧されています

リーディングDXスクール一覧

リーディングDXスクール等各校が創出した事例（報告書）を掲載(R8.9で3,500件以上の事例を掲載)

リーディングDXスクール事業【実践事例】

【活動内容】 各教科の授業や学習活動にICTを活用し、効果的な学習の場を創出する。

【活動の目的】 各教科の授業や学習活動にICTを活用し、効果的な学習の場を創出する。

2 実践等を解説する学習会をアーカイブで公開

リーディングDXスクール事業 公開学習会

開催日時：12月12日（火） 15:30～16:30

この日の授業！ どうするの!?

リーディングDXスクール事業 公開学習会

開催日時：12月12日（火） 15:30～16:30

この日の授業！ どうするの!?

オンライン公開学習会

私たちの毎日が、GIGAでこう変わった！

～子供たちはどう感じる？ 選べる学び方 深まる学び～

3 学校の実践を動画で公開

！23.6万回以上※
視聴されています！

リーディングDXスクール実践事例集（令和5...）

この実践事例集には、令和5年度のリーディングDXスクール事業で実施された教育実践動画が31...に収録

1人1台端末を活用した授業実践・校務DXの取組を計36本の動画にまとめた再生リストはコチラ

公開授業、事業研修会等を通して、深い学びに向けた授業実践から事例を創出



【参考】リーディングDXスクール事業（令和4～7年度まで実施）
指定校は、1人1台端末とクラウド環境を活用し、子供たちの情報活用能力の育成や、デジタル学習基盤を効果的に活用した授業について検討し、実践を重ねて事例を創出。その創出の過程を、オンラインを含む公開授業等で公開し、授業をもとにさらに検討を深めるなどを実施した。

！200万回以上※
閲覧されています！

スタディーエクス スタイル

StuDX Style

デジタル学習基盤で加速する深い学び

GIGA StuDX メールマガジン

デジタル学習基盤の活用に関する事例を多数掲載！

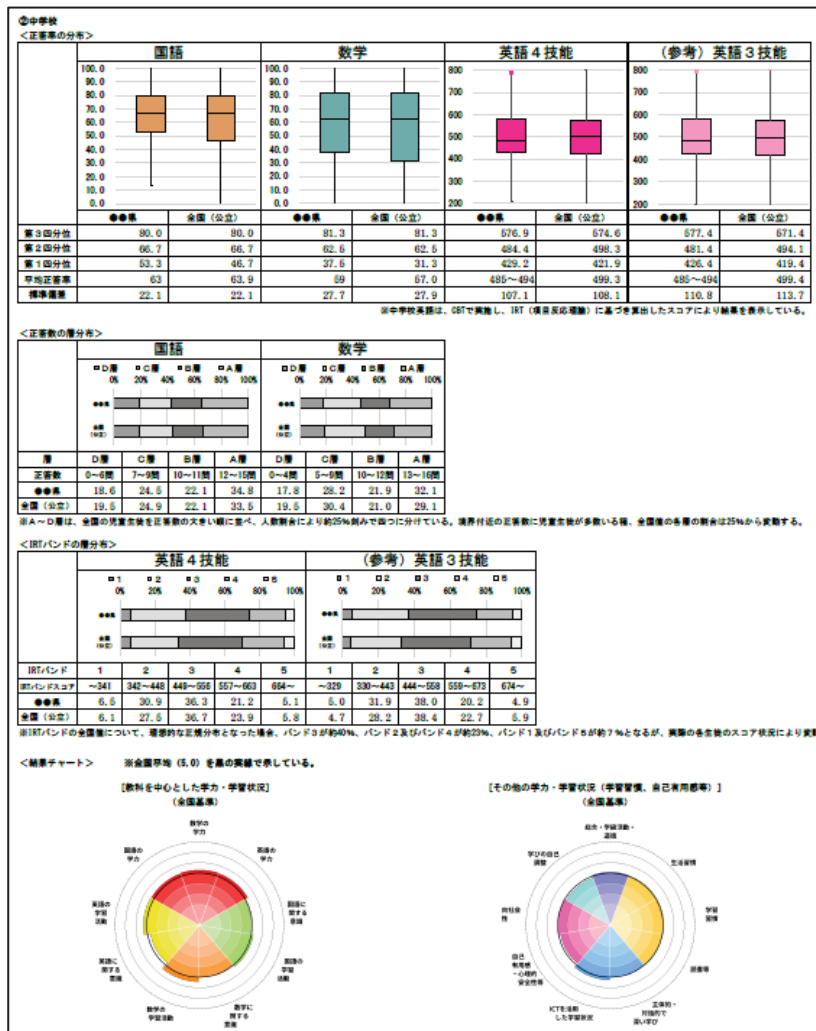
1人1人が自走する学びに向けて

校務DX -ICT活用による校務の効率化-

(参考) 都道府県・指定都市別ノートの見方について

- 令和7年度調査から、都道府県・指定都市別結果等について、文章で説明する「都道府県・指定都市別ノート」を作成して公表している。

ノートのイメージ



【2】全体の特徴

- 全教科、全国的なばらつき傾向と大きな差は見られなかった。
- D層の割合、バンド1の割合は、それぞれ全国の結果と比較して大きな差は見られなかった。
- 教科・●●教科について、全国の結果と比較して、D層の割合、バンド1の割合が多い結果となっている。他の教科について、D層の割合、バンド1の割合は、それぞれ全国の結果と比較して大きな差は見られなかった。
- 小学校(中学校)においては、「●●」や「●●」領域のスコアについて、高い結果が出ている。また、「●●」や「●●」領域のスコアについて、低い結果が出ている。

ノートの特徴

- 箱ひげ図や四分位層等の分布や習熟度を目配りした統計表やグラフや、学力・学習状況等について多面的な分析を行うための結果チャートを掲載。
- 教科調査の分布や質問調査の結果等について文章で記載。

ノートの記載例

(分布・層分布関係)

- D層の割合、バンド1の割合は、それぞれ全国の結果と比較して大きな差は見られなかった。
- 教科・●●教科について、全国の結果と比較して、D層の割合、バンド1の割合が多い結果となっている。他の教科について、D層の割合、バンド1の割合は、それぞれ全国の結果と比較して大きな差は見られなかった。

(質問調査関係)

- 小学校(中学校)においては、「●●」や「●●」領域のスコアについて、高い結果が出ている。また、「●●」や「●●」領域のスコアについて、低い結果が出ている。